

| 科目分類 | いのち・人間の教育 | | | 開講学科 | 看護学科 医療栄養学科 |
|--|---|---------|----|------|----------------|
| 科目番号 | 学年 | 配当セメスター | 区分 | 単位数 | 授業時間数 |
| 18013 | 2 | 前期 | 選択 | 1 | 15 |
| 授業科目名 (英文) | 人間関係論 (Human Relation) | | | | |
| 担当教員名 | 過能 洋平 | | | | |
| 授業の概要及び到達目標 | | | | | |
| <p>他者と関係を一切持たずに生きる人は殆どいない。よい人間関係を築くことは、よい人生を送ることにもつながる。この授業では、心理学系のクリティカルシンキングから人間関係を成立させ、深める要素、崩壊させる要素などを学び、自分に対するだけでなく自分が有する関係・環境に対するメタ思考能力を養う。</p> | | | | | |
| 準備学習等 | | | | | |
| <p>各講義時に、次回までに読んでおくテキストとレジュメの範囲を指示する。レジュメや配布資料を読んだ上で疑問点を挙げておくこと。単語の意味がわからないという程度の疑問なら各自で調べて解消しておくこと。各講義の予習復習ともにおよそ1時間程度を必要とする。テキストは指定しないが、下記に挙げた参考図書を手に入れ読んでおくことで理解が深まる。</p> <p>この授業では講義で扱ったテーマについてどう考えるか、提示した状況においてどう判断するか、講師から学生に意見を求めることがある。学生の意見をもとにディスカッションすることも本講義の重要な要素となる。受講学生にはディスカッションへの積極的な参加を求める。</p> <p>最終回の講義時には、講義全般の内容に関する質問を受け付ける時間もとる。講義全体の内容を確認、復習し質問事項を用意すること。</p> | | | | | |
| 成績評価の方法 | <p>講義に対する貢献（40%）：出席・質問・講義への参加姿勢、コメントシートなどにより評価する。（規定回数以上の出席がないと自動的に不可となる。）</p> <p>レポート（60%）：講義内容を理解しているかどうか確認するため、また講義内容に関連したテーマについての考察を書いてもらうため、期末レポートを課す。</p> | | | | |
| テキスト | テキストは指定しない。毎回レジュメを配布する。必ず持参すること。 | | | | |
| 参考図書 | <p>『クリティカルシンキング 入門篇』、E.B ゼックミスタ J.E ジョンソン（宮元他訳）、（北大路書房）</p> <p>『クリティカルシンキング 実践篇』、E.B ゼックミスタ J.E ジョンソン（宮元他訳）、（北大路書房）</p> <p>『クリティカル進化論 『OL 進化論』で学ぶ思考の技法』、道田泰司・宮本博章、（北大路書房）</p> <p>※『ファスト&スロー』、ダニエル・カーネマン、（早川書房）</p> <p>そのほか適宜講義内で紹介する。</p> | | | | |

| | |
|-------------------------------|--|
| 備 考 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義の開始前ないし終了後の時間に、非常勤講師室または教室で対応する。もちろん、質問などは授業時間内にしてもらってかまわない。授業内での質問は、講義に貢献するものとして評価する。 ・卒業認定や学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図を確認すること。 ・各講義の終わりにコメントシートを書いてもらう。その記述内容を次回講義に反映させる。 ・期末レポートのウェイトが60%を占めるが、追試験・再試験・課題追加などはしない。 |
| 授 業 計 画 | |
| コメントシートの内容や進み具合により多少の変更はありうる。 | |
| 第一回 | <p>イントロダクション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価方法等の説明。コミュニケーションとクリティカルシンキングの分類について学ぶ。 |
| 第二回 | <p>物事の原因を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物事の原因を特定し理解するための方法について学ぶ。 |
| 第三回 | <p>他人の行動を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の行動の原因（≒理由）を特定し判断するための方法について学ぶ。 |
| 第四回 | <p>自分自身を省察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の行為や考え方について考えるメタ思考について学ぶ。 |
| 第五回 | <p>信念を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抱いている偏見や思い込み、間違っただ信念がなぜ強固なのか、その改訂がなぜ難しいのかを学ぶ。 |
| 第六回 | <p>自分は何を知っているかを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に知っていることと知っていると思っ込んでいることとの相違や、自分自身が実際に保持している知識を正しく把握することができない理由などを学ぶ。 |
| 第七回 | <p>問題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を同定する方法、クリティカルに解決する方法を学ぶことを通じて、メタ認知的技能を使用する方法や具体的場面などについて学ぶ。 |
| 第八回 | <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全講義のポイントを復習し、質問を受け付ける。またレポート課題の説明をする。 |